

水田農業経営確立対策の計画的な推進を図ろう。
直播栽培等新技術の導入と地域特性を活かした米づくりを進めよう！

あ、おいしい。

平成 12 年度

ロゴ貼り付け

稲作情報

中通り版
第 2 号

平成 12 年 5 月 31 日

「ふくしま新世紀農業・農村確立運動」県推進本部

発行：福島県の米 稲作情報編集会議
編集：福島県農業試験場

東北地方 1 カ月予報（5 月 26 日仙台管区气象台発表）

この期間の東北地方は、前半は低気圧と高気圧が交互に通じ、天気は周期的に変化するでしょう。後半は前線や低気圧の影響を受けやすく、天気のぐずつく時期があるでしょう。平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。平均気温は高いでしょう。

生育状況

- 1) 作柄解析試験の苗は、草丈がやや短く、葉齢が平年並からやや進んでいた。地上部乾物重および苗の充実度は平年並からやや優っていた。
- 2) 活着は、5 月 1 日植えが良好であり、15 日植えが平年並である。5 月 1 日植えの生育は、草丈がやや長く、分けつの発生が平年並である。主稈出葉から見た本田での生育は、平年並である。
- 3) 現地では、4 月下旬の低温により苗立枯病がやや多く見られた。苗丈はやや短く、移植盛期は概ね平年並であった。活着は、5 月上旬の移植を含めて良好である。

表 1 主稈出葉期（本場作柄解析試験）

品 種 年次	5月1日植え		5月15日植え	
	5 葉	6 葉	4 葉	5 葉
	(月日)	(月日)	(月日)	(月日)
ひとめぼれ 本年	5.15	5.24	5.22	-
前年	5.15	5.24	5.23	5.29
平年	5.19	5.26	5.23	5.29
コシヒカリ 本年	5.17	5.24	5.24	-
前年	5.16	5.24	5.23	5.29
平年	5.19	5.26	5.24	5.29

表 2 作柄解析試験の移植後 25 日の生育

品 種 年次	草丈	茎数	主稈葉齢
	(cm)	(本/㎡)	
ひとめぼれ 本年	24.7	226	5.3
前年	20.8	140	5.2
平年	21.9	224	5.6
コシヒカリ 本年	27.7	201	5.4
前年	23.6	160	5.1
平年	25.3	205	5.4

（本場 5 月 1 日植え）

浅水管理を基本にし、初期生育の早期確保につとめよう！

移植栽培の当面する技術ポイント

- 1) 浅水管理により水温の日較差を大きくし、分けつの早期確保に努める（図 1）。
- 2) 灌水は時刻に行う。また、冷水地帯では、温水チューブ等を利用して水温上昇に努める。
- 3) 有効分けつが確保された場合は、直ちに中干しを実施して無効茎の抑制と地耐力の向上を図る（表 3）。
- 4) 土壌中の地力窒素の発現は、平年よりやや少ないが、分けつ期の追肥は行わない。
- 5) 一発剤等の散布遅れによりノビエ等が残草した場合は、シハロホップブチル剤または中期剤の散布によって防除する。また、アゼナの発生が目立つ場合は、中・後期剤を使用して防除する。
- 6) クログワイ、オモダカ等の難防除雑草が多発する場合は、ベンタゾンを含む除草剤で防除する。
- 7) 葉いもち防除では、補植用の取り置き苗を直ちに処分する。
。水面施用剤を使用する場合は、薬剤により使用時期が異なるので、県病害虫防除基準 p.56 を参照し、適期に使用する。
- 8) ばか苗病の発生が本田で見られた場合は、直ちに抜き取り焼却処分する。

技術ポイントの基礎データ等

表 3 有効分けつ決定期における生育量の目標

品 種	地 域	草 丈	茎 数
		(cm)	(本/㎡)
コシヒカリ	平坦部	25～30	400～450
ひとめぼれ	平坦部	25～30	500～550
初 星	平坦部	25～30	500～550
初 星	山沿い	25～30	450～500

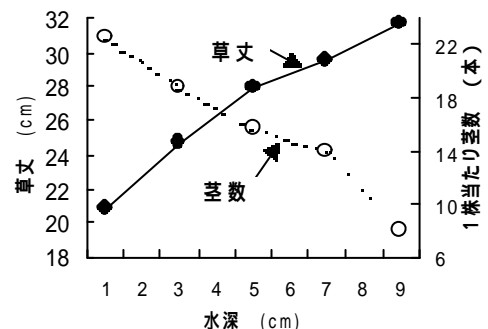


図 1 稚苗移植田の水深別水稻の生育
（547 宮城農試）

直播栽培の技術ポイント

出芽及びその後の生育は順調である。適切な水管理により、初期生育の促進を図るとともに、雑草や初期害虫の発生状況を把握して早期に防除対策を実施する。

A 湛水直播

1) 生育の状況

場内作柄解析試験の出芽は、昨年より2日遅れたが出芽数はやや多かった。現地の出芽は、4月下旬から5月上旬の低温によりやや遅れたが、概ね良好である。また、加温処理を行うことにより、出芽が早まり、苗立ち数が増加したほ場が見られた。鳥害は昨年より少なかった。

2) 当面の技術対策

- (1) 生育の促進を図るため、浅水管理を基本とするが、株元が安定していないほ場では、2～3日の落水期間を設け、根張りを促進させる。
- (2) ほ場内に作溝し、間断灌漑や中干し期の水管理を容易にする。
- (3) ノビエの残草が認められる場合は、ノビエ3葉期までにシハ口ホップブチル粒剤を散布する。また、表土剥離や藻の発生が多いほ場では、ACN剤を散布する。
- (4) イネミズゾウムシやイネドロオイムシの発生が認められるほ場では、早急に水面施用剤等で防除を実施する。

B 乾田直播

1) 生育の状況

場内作柄解析試験の出芽は、昨年よりやや遅れたが出芽数は多かった。その後の生育も順調であることから、まもなく入水が可能である。現地では、4月中下旬の多雨により播種作業が遅れたり、湛水直播に切り替えたほ場があった。出芽は概ね良好であり、まもなく入水の予定である。

2) 当面の技術対策

- (1) ノビエの葉齢を観察して茎葉処理除草剤を散布する。広葉雑草が多い場合には、4葉期を目安にシハ口ホップブチル・ベンタゾン液剤を、広葉雑草が少ない場合には4.5葉期を目安にシハ口ホップブチル液剤を散布する。
- (2) 入水はイネの葉齢で3葉期を目安に実施する。既に入水したほ場では、畦畔、水尻を点検整備して漏水を防止するとともに、雑草の生育に合わせて既存の移植用除草剤を散布する。
- (3) 湛水後は、窒素追肥(10a当たり4～6kg)を行うとともに、発生に応じた初期害虫の防除を実施する。

直播栽培の技術ポイントの基礎データ等

表4 場内の湛水直播稲の生育状況(コシヒカリ)

年次	播種日 (月日)	出芽数 (本/m ²)	出芽始期 (月日)	最大 葉齢
H12	5. 9	92	5.16	2.0
H11	5. 7	72	5.14	2.0
H10	5. 8	128	5.13	2.5
H 9	5. 9	46	5.15	2.2
H 8	5.10	83	5.21	< 1

注) 調査日 H12,H11,H10:5/25 H9,H8:5/26
H8は無覆土播種

表5 場内の乾田直播稲の生育状況

品 種	年次	播種日 (月日)	出芽数 (本/m ²)	出芽始期 (月日)	最大 葉齢
ひとめ ぼれ	H12	4.26	233	5.19	2.2
	H11	4.23	130	5.16	2.0
	H10	4.22	133	5. 8	3.5
	H 9	4.23	145	5.15	2.3
	H 8	4.25	68	5.19	2.0
コシヒ カリ	H12	4.26	257	5.16	2.2
	H11	4.23	187	5.15	2.0
	H10	4.22	200	5. 6	3.4
	H 9	4.23	162	5.14	2.1
	H 8	4.25	60	5.18	2.0

注) 調査日H12:5/26 H11:5/24 H10:5/25 H9:5/23 H8:5/27

麦・大豆栽培の技術ポイント

1) 麦類の収穫乾燥調製

- (1) 麦類の成熟期は平年よりやや遅れると予想されるが、刈り遅れずに適期刈取りを励行する。
- (2) 循環型乾燥機を用いた乾燥の場合は、穀粒の初期水分・乾燥温度に留意する。最終的な穀粒水分は大麦が13%、小麦は12.5%に仕上げる。
- (3) 調製は、ライスグレーダの網目が2.2mm以上を使用し、未熟粒の混入を防止する。

2) 大豆の作付準備

大豆は種子の良否が収量・品質を大きく左右するため、必ず種子の更新を行う。

播種適期は5月下旬から6月下旬となるが、栽植本数が少ないと収量が上がらないので、十分な播種量を確保する。また適正な基肥窒素量を施用する。

大豆では生育初～中期の湿害が減収の大きな要因となるため、特に転換畑では明きょ等による十分な排水対策が必要である。

表6 大豆の播種量・施肥量の目安

播 種 時 期	畦間 (cm)	株間 (cm)	栽植本数 (100本/10a)	基肥窒素量 (kg/10a)
標 播(6月上旬)	70～75	20～30	130～140	2.0～2.5
晩 播(6月中旬)	70～75	14～15	190～210	2.5～3.0
極晩播(6月下旬)	70～75	9～10	260～290	2.5～3.0
晩播狭畦無培土	30～40	20～25	200～330	2.0～2.5